

令和元年6月14日現在

機関番号：24403

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2017～2018

課題番号：17H07028

研究課題名(和文)統合失調症で慢性閉塞性肺疾患のある人の地域生活の特性と訪問看護ケア

研究課題名(英文)Community life and Visiting Nursing Care of People with Schizophrenia and COPD in Japan

研究代表者

富川 順子(TOMIKAWA, JUNKO)

大阪府立大学・看護学研究科・准教授

研究者番号：90433010

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,100,000円

研究成果の概要(和文)：統合失調症で慢性肺疾患がある利用者への訪問看護を行った経験のある看護師11名に、そのアセスメントと訪問看護ケアについてインタビューを実施した。訪問看護師は精神機能、呼吸状態、活動への影響、サポート者との関係、治療の状況に加えて利用者の喫煙・COPDとのつきあい方、地域生活での望みについてのアセスメントを行っていた。

訪問看護ケアとしては呼吸管理・薬物療法・身体健康管理を支えるケア・関係者間を調整するケアに加えて、ケアを受け入れてもらえる人間関係、利用者の精神的な特徴を理解したうえでの関わりと、利用者が自分なりの方法でCOPDとつきあいながら望む地域生活を送ることを大事にケアを行っていた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

統合失調症で慢性閉塞性肺疾患のある人の地域生活の実際が明らかになったことで、この人々のニーズの理解が進み、訪問看護や介護を行う上で役立てることができる。

統合失調症で慢性閉塞性肺疾患のある人に、精神疾患とCOPDへのケアだけではなく、利用者がケアを受け入れて自分らしく生きることを支える訪問看護ケアが明らかになったことで、同じ疾患を持つ人々のケア方法の理解と、実際のケアの改善に役立てることができる。

研究成果の概要(英文)：I clarified about 11 visiting nursing care of people with schizophrenia and chronic obstructive pulmonary disease(COPD) in Japan.They were taking care about helping respiratory management,mental disease control,medication,adjusting service people.They thought it important to help their patients accept the care, and help them live their own lives in community with symptoms of COPD. For this reason, it took a lot of time to build relationships with their patients,they don't blame their patients even if they can't keep desirable health behavior,and they keep visiting.This was characteristic of visiting nursing care of people with schizophrenia.

研究分野：精神看護

キーワード：統合失調症 慢性閉塞性肺疾患 地域生活 訪問看護

## 様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

統合失調症のある人で、慢性閉塞性肺疾患（以下 COPD）を持ちながら地域生活をする、訪問看護の利用者は少なからずおり、突然死のリスクも高いことから、訪問看護において統合失調症で COPD を持ちながら地域生活する人の実態を理解して必要な看護ケアを行うことは重要と考えられる。しかし、日本において統合失調症で COPD を持ちながら地域生活をする人の実態や看護ケアについて述べられている研究はまだ少なく、このような対象の地域生活の実態とケアのニーズ、提供すべき訪問看護ケアについてはまだ明らかにはなっていないと考えられる。以上から、統合失調症で COPD を持ちながら地域生活をする、訪問看護を利用する人の特性（精神状態と身体状態、地域生活、訪問看護へのニーズ）と、訪問看護ケアについて明らかにしたいと考えて、本研究に取り組むことにした。

### 2. 研究の目的

- 1) 統合失調症で COPD を持ちながら地域生活をする、訪問看護の利用者の生活世界、その特性と利用者の訪問看護へのニーズについて明らかにする。
- 2) 統合失調症で COPD を持ちながら地域生活をする、訪問看護の利用者の地域生活を支えるための訪問看護ケアについて明らかにする。

### 3. 研究の方法

#### 研究目的 1)

##### (1) 対象者

統合失調症で COPD を持ちながら地域生活をする、訪問看護の利用者 4 名

##### (2) データ収集期間：H29 年 4 月～H30 年 10 月

##### (3) データ収集方法

訪問看護利用者への訪問看護への参加観察。1 人につき 6 ヶ月のうち 3 回同行。

フィジカルアセスメント、動作時の身体の様子や日常生活の様子、COPD や身体合併症についての捉え方、家族や利用している社会資源、自分が受けている治療やケアとそれに対して思っていること、治療やケアへの希望について、訪問看護時のデータ収集と対象者への聞き取りを行った。

担当訪問看護師に、訪問看護師が把握する精神状態と統合失調症に関する情報、身体状態、COPD に関する状態と治療、現在行っている看護ケアとその反応、看護師が利用者に対してしているアセスメント、看護師が現在のケアについて課題に思っていることについて 30 分程度のインタビューを 1～2 回行った。

##### (4) データ分析方法

対象者からのデータを、同じ種類ごとにまとめて対象者の特性について整理した。

訪問看護師のアセスメントとケアについて、同じケアをまとめて整理、カテゴリー化した。

#### 研究目的 2)

(1) 対象者：統合失調症で COPD を持ちながら地域生活をする、訪問看護利用者に訪問看護ケアを提供している訪問看護師 11 名。（関西、関東、九州、四国）

(2) データ収集期間：H30 年 4 月～H31 年 2 月

(3) データ収集方法：1 人 1 回 60～90 分程度の半構成的インタビュー。

統合失調症で COPD を持ちながら地域生活をする利用者 1 名を思い出してもらい、訪問看護師が捉えていたその利用者の特性、利用者のアセスメントと実施した看護ケアについて語ってもらったのち、インタビュー概要をまとめたものについて一度確認してもらった。

##### (4) データ分析方法

インタビューを逐語録に起こし、1 人の対象者ごとに訪問看護師が捉えていた利用者の特性、アセスメント、訪問看護ケアの側面に分けながら、同じ意味内容を持つと考えられるものをまとめてカテゴリー化し整理した。

### 4. 研究成果

#### 1) 統合失調症で慢性閉塞性肺疾患（COPD）のある人の生活の特性

利用者 4 名のうち、2 名は単身、2 名は施設生活をしてきた。COPD の気流閉塞に基づく病期分類は ～ 期と考えられ、呼吸機能の低下によって日常生活の活動範囲が狭く、買い物や掃除の介護ケアを利用していた。在宅酸素療法 1 名、経鼻的持続陽圧呼吸療法は 1 名利用していた。3 名は身体疾患や今後の生活への不安はあるものの現在の生活に満足していると答え、精神的に安定して自分らしい地域生活を継続することが希望と答えたが、1 名のみ抑うつ状態の強まりがみられた。2 名はやむない事情で禁煙、1 名は自分の意思で禁煙していた。1 名はターミナル状態でも最後まで喫煙することを選択し、内科往診・重点的な訪問看護・介護を利用し自分の意思で自宅での最後を迎えた。

## 2) 統合失調症で COPD のある人への訪問看護ケア

訪問看護師の精神科看護経験は 10 年以上、訪問看護経験年数は 1～23 年であった。

訪問看護師は、利用者の精神機能、呼吸状態、身体状態、日常生活と活動への影響、サポート者との関係、受診・内服・酸素療法など治療の状況と利用者の喫煙・COPD とのつきあい方、地域生活での望みと利用者の希望する最後の迎え方のアセスメントを行っていた。

訪問看護師は、呼吸管理を行う、薬物療法を支える、身体健康管理を支える、身体の問題の相談に応じる、内科医とのあいだを調整する、関係職種とのあいだを調整するというケアを行っていた。

加えて訪問看護師は、ケアを受け入れてもらうために利用者人間関係を築き、利用者の精神的な特徴を理解したうえで関わり、利用者の健康維持に反する行動の背景を理解してタイミングをみて望ましい行動に利用者が向くように後押しすることで、利用者が自分なりの方法で COPD とつきあいながら望む人生を送ることを目的に関わっており、この関わりが統合失調症で COPD のある人への訪問看護ケアの特徴と考えられた。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 0 件)

〔学会発表〕(計 1 件)

富川順子、浮舟裕介、柱谷久美子(2018):統合失調症で慢性閉塞性肺疾患のある人の地域特性と訪問看護ケア、第 33 回日本保健医療行動科学学会学術大会.

〔図書〕(計 件)

〔産業財産権〕

出願状況(計 件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

出願年:

国内外の別:

取得状況(計 件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

取得年:

国内外の別:

〔その他〕

ホームページ等

## 6. 研究組織

### (1)研究分担者

研究分担者氏名:

ローマ字氏名:

所属研究機関名:

部局名:

職名:

研究者番号(8桁):

### (2)研究協力者

研究協力者氏名:

ローマ字氏名：

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。